

報道機関各社 様

70台を超える車いすを組み上げる大型作品と  
市内小中学生×アーティスト×企業のコラボレーション作品を展示！  
札幌国際芸術祭 冬のプレイベント@さっぽろ雪まつり大通6丁目会場  
展示アーティストによる作品設営現場 取材のお願い

このたび札幌国際芸術祭（略称：SIAF<sup>サイアフ</sup>）では、昨年に引き続き「2026さっぽろ雪まつり」（2026年2月4日～11日開催）と連携し、大通6丁目会場において2つの作品を展示します。本展示は、1年後に開催する次回芸術祭・SIAF2027（2027年1月16日～2月21日）に向けたプレイベント<sup>ひわ</sup>として実施するものです。さっぽろ雪まつり開幕数日前より、アーティストの檜皮一彦<sup>ひわ</sup>、フジ森が参加し、現地で作品準備・設営を行います。雪像制作とはひと味異なるアート作品設営の現場を、この機会にぜひご取材ください。

札幌国際芸術祭 冬のプレイベント@さっぽろ雪まつり大通6丁目会場

2つのアート作品展示を中心に、市民サポーターによるガイドプログラムやユネスコ創造都市ネットワークにまつわるパネル展示を実施します。

会期：2026年2月4日(水)～11日(水・祝) 10:00-20:00

会場：さっぽろ雪まつり大通6丁目会場（西側の一部）

作品①：屋外展示

檜皮一彦《HIWADROME: type\_ark\_spec3》2026

大阪・関西万博会場内で展示され、注目を集めた話題作。77台の車いすで構成される大型のアート作品が、雪まつりバージョンとなって登場します。制作者であるアーティストの檜皮一彦にとって、車いすは日常に欠かせない身体の一部です。しかし、雪深い冬の札幌を車いすで移動することは容易ではありません。檜皮は、1年後に開催するSIAF2027の参加アーティストのひとりです。SIAF2024では、降雪期における車いすユーザーの作品鑑賞条件のリサーチを行い、2025年10月には「アートとアクセシビリティ」にまつわるトークイベントに登壇しました。そして今回のプレイベントでは、雪の屋外会場での作品展示に挑みます。SIAF、アーティスト、そして鑑賞者が、「誰もが楽しめる芸術祭」や「多様な可能性」について共に考えていく新たなスタートとなるはずです。

制作協力：株式会社 イルカ、後藤雅樹／ジーファクトリー  
川村義肢株式会社、浜田英明建築構造設計



檜皮一彦《HIWADROME: type\_ark\_spec2》2025  
EXPO 2025 大阪・関西万博会場夢洲での展示風景

▶ 設営スケジュール（予定）

1月29日(木) 午後：車いすの搬入（70台を超える車いすを現場に並べます）

1月30日(金)～2月2日(月)：車いす組み上げ作業



檜皮一彦

大阪出身。京都芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻修了。自らの移動手段である車いすをメディアとして用いるインスタレーション作品「HIWADROME」シリーズをコアに、ワークショップやリサーチ等を経て可視化された障壁や、社会に組み込まれている潜在的な勾配に対し、新たな動線の設計という具体的な実践を通じて未来へ架ける「walkingpractice / code\_bridge」、車いすの車輪運動を利用しニットを生成する自作マシンを駆り、地面の状態を編み目の変化として記録する「walkingpractice / code\_knitting\_record」などのプロジェクトを展開している。SIAF2027参加アーティスト。

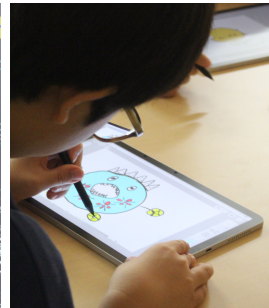
## 作品②：特設テント内展示

## フジ森《みんなのコード 雪・木・星+みんなのモンスター》2026

SIAFでは芸術祭を「未来の学校」と捉え、発見・体験・学びを提供するプログラム「SIAFスクール」を2023年より実施しています。その取り組みのひとつが札幌市内小中学校向けの出前授業です。今年度は、アートユニット・フジ森が開発したウェブアプリケーションを使った「プログラミングでアートにチャレンジ」、デジタルペン技術を世界的にリードしてきた株式会社ワコムとSIAFが共同開発した「自分だけの新しいモンスターを作ってみよう〜ワコム流アイデアワーク〜」という2つのワークショップを実施しました。アートとテクノロジーを活用した出前授業には、計20校1509名の小中学生が参加。子どもたちの自由な発想で制作された個性豊かな成果の数々が、フジ森の手によりひとつのアート作品としてまとめられます（鑑賞の流れを妨げないかたちで、鑑賞者の動きに応じて小さな反応が生まれる仕掛けが含まれます）。



参考作品：  
フジ森《みんなのコード[雪・木・星]》2025  
Photo by FUJIKURA Tsubasa



出前授業「自分だけの新しいモンスターを作ってみよう〜ワコム流アイデアワーク〜」の様子

## ▶ 設営スケジュール（予定）

| 2月1日(日)〜3日(火)：テント内への機材搬入、作品設営作業



## フジ森

藤木 淳と藤木寛子の夫婦による札幌を拠点とするインタラクティブ・アート・ユニット。構想はそれぞれで持ち寄り、藤木 淳がインタラクティブ設計、藤木寛子がビジュアル構成を担当し、鑑賞者参加型のアート作品を展開している。藤木 淳は独自のアルゴリズムに基づくインタラクティブ作品を、藤木寛子は映像インスタレーションなど作品を制作。2014年より合作を始め、2019年よりユニット名をフジ森とした。2023年度より、SIAFと協働した出前授業を実施。子どもたちの成果をひとつの作品としてまとめ、SIAF2024および2025さっぽろ雪まつりにおいて展示した。



## 株式会社ワコム

デジタルペンの技術を通して、「デジタルで描（書）く」体験を提供する「テクノロジー・リーダーシップ・カンパニー」。日本発のワコムのペンタブレット製品は、現在全世界150以上の国と地域で、映画制作や工業デザインのスタジオ、デザイナー、漫画家などプロクリエイターや、市役所窓口、ホテルのチェックイン端末など幅広い用途で使用されている。SIAF2024よりイニシアティブ・パートナーとしてSIAFと協働。教育現場での実践的なワークショップを共同開発し、2025年度は出前授業として実施した。

上記プレイベントおよび設営現場の取材のご協力をお願いいたします。アーティストへのインタビューも可能です。他プレイベントに関する取材も随時受け付けておりますので、ぜひお問合せください。

▶ FOR SIAF2027ー2026年冬のプレイベント：<https://siaf.jp/pre-event-2026-winter/>

お問合せ

札幌国際芸術祭実行委員会 担当：杉本・阿部島

〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル10階

電話：011-211-2314（平日 8:45~17:15） Fax：011-218-5157 E-mail：press@siaf.jp